

シラバスを題材にした入学前教育の実践報告

Practical Report on Syllabus-related Pre-admission University Education

(2022年3月31日受理)

仁宮 崇	加賀田江里	奥村 弥生
Sou Ninomiya	Eri Kagata	Yayoi Okumura
藤田 悟	小築 康弘	
Satoru Fujita	Yasuhiro Kozuki	

Key words : 入学前教育, レポート, シラバス

要 旨

総合生活学科令和2年度入学前教育として令和3年度入学予定者46名に任意の科目のシラバスを確認し、(1) 学ぶ内容の要約、(2) 受講により身につく能力をどのように生活に活かすか、を記載するレポート課題を課した。課題の回収率は100%であり、課題の題材となった科目の中でも、「現代生活とマナー」「生活コミュニケーション論」「ホスピタリティ論」といった必修科目を選択した人が多かったが、科目選択の傾向として、食、デザイン、医療事務と中国短期大学総合生活学科の特徴に合うように幅広い分野から科目が選択されていた。

レポートの平均点は82.84点と高かったが、事前に入学予定者に示した採点のポイントのうち「返信封筒の宛名に記載した行を御中に直す」、「差出人である入学予定者の住所や氏名を書くといった手紙のマナー」、「自分の考えを述べる」、「段落を付けて書くといった原稿用紙の使用」の項目において減点が目立った。これらの結果は、入学後の授業で学生の文章力を大学レベル・社会人レベルへと引き上げるための指導の必要性を再認識させるものであった。

1. はじめに

文部科学省「令和4年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」によると、「各大学は、入学手続をとった者に対し、必要に応じ、これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学修のための準備をあらかじめ講ずるよう努める。特に12月以前に入学手続をとった者に対しては、積極的に当該措置を講ずることとする。」とある¹⁾。

2022年現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学予定者を来学させて入学前教育を行うことは難しい状況であるが、コロナ禍前であると「入学予定者が実際に大学教員の講義を受け、その内容について他の参加者と交流することを通して、大学での学びを具体的に

イメージしてもらい取り組みを行っている教育機関²⁾、また、学生もスタッフとなり、自己理解・他者理解といったコミュニケーションを入学前プログラムに取り入れている教育機関もあり³⁾、各教育機関で入学前教育に力を入れて様々な内容に取り組んでいる状況が見受けられる。

中国短期大学総合生活学科では例年、入学前教育にレポート課題を課している。令和3年度入学前教育においては、シラバスを読む課題を課した。

総合生活学科は、「生活学を幅広く学び基本的な教養を身につけ、更に自ら目指す方向についてより専門性を深く学ぶ」ことが特徴であり、様々な分野の科目を開講している。選択科目に関しては、学生は取りたい資格、興味関心に応じて科目履修をすることになる。入学して

科目履修をする時はシラバスを参考にするため、シラバスの内容を読むことでその科目で何を学ぶかを把握し、どのような能力を身に付け、生活に活かしたいかの考えを述べる練習としてこの課題を考案した。その実践内容について報告する。

読み、「最初にどのようなことを学ぶ科目かその内容を簡潔にまとめ、その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか」を同封の原稿用紙に書きなさい。

2020年時点では2年間のシラバスが公開されているのが2019年度入学生までだったので、2019年度入学生対象のシラバスを読んでもらうことにした。表1に2019年度入学生対象のカリキュラム表、表2に高校生に伝えた採点のポイントを示す。

カリキュラム表において、入学予定者は2021年入学予定であり、本科はカリキュラムの大幅な変更が生じたため、「インターネットに公開されているWebシラバスの設定上、現在2年生（2019年度入学生）対象の科目一覧のため、皆さんが入学されたら科目の追加、廃止等、変更されている科目もありますのでご了承ください。」という注意書きも入れておいた。

高校生に採点のポイントを伝えることで、どのようなことを意識して取り組めば点になるかを明確にわかるようにした。

2. 方 法

2.1 課題送付対象と送付時期

令和3年度入学予定者46名を課題送付対象とした。課題の送付時期は、総合型選抜、公募Ⅰ期、公募Ⅱ期、指定校推薦、スポーツ推薦Ⅰ期の入試区分での合格者を2月中旬、一般選抜Ⅰ期、スポーツ推薦Ⅱ期、共通テスト利用Ⅰ期の入試区分での合格者を3月上旬とした。

2.2 課題内容

課題は、以下のように設定した。

課題テーマ

インターネットに公開されている中国短期大学総合生活学科のWebシラバスから2科目を選択して内容をよく

表1 総合生活学科2019年度入学生用カリキュラム

教養科目		専門科目			
必修科目	英語A	生活学概論	生活学基礎演習Ⅰ	生活学基礎演習Ⅱ	ホスピタリティ論
	英語B	キャリア基礎演習	キャリア開発演習	生活情報論	生活環境論
	仏語	現代生活とマナー			
	中国語	生活コミュニケーション論	生活コミュニケーション演習B	生活コミュニケーション演習C	生活コミュニケーション演習D
	韓国語	生活コミュニケーション演習A			
	※5科目のうちいずれか1科目以上履修				
カリキュラム 選択科目	日本語表現	生活経営論	社会福祉論	情報処理演習A	医療接遇演習
	芸術	国際関係	ヒューマン7A	情報処理演習B	メンタルヘルス学
	法学概論	消費生活学	ヒューマン7B	経営学概論	医療機関実習
	社会心理学	生活と医学	ヒューマン7C	ビジネス実務総論	生活産業実習
	社会学	ライフステージと健康	ヒューマン7A演習Ⅰ	簿記	総合生活学セミナーA
	自然科学概論	公衆衛生学	ヒューマン7A演習Ⅱ	プレゼンテーション演習	総合生活学セミナーB
	キャリア形成論	食と生活	介護保険事務論	医療管理事務総論	総合生活学セミナーC
	キャリア開発論	食と健康	衣と生活	医療秘書学	総合生活学セミナーD
	体育実技	食品学	衣生活実習	ビジネス実務演習	総合生活学セミナーE
	フレッシュヤーズセミナー	食空間と調理	生活とデザイン	医事コンピュータ演習	総合生活学セミナーF
	地域創生論	基礎調理演習	色彩学	医事コンピュータ演習応用Ⅰ	総合生活学セミナーG
	ボランティア論	調理実習Ⅰ	生活デザイン実習A	医事コンピュータ演習応用Ⅱ	総合生活学セミナーH
		調理実習Ⅱ	生活デザイン実習B	診療報酬請求事務	総合生活学セミナーI
		調理実習Ⅲ	ファッション造形	診療報酬請求事務応用Ⅰ	総合生活学セミナーJ
		応用調理演習	ファッションビジネス	診療報酬請求事務応用Ⅱ	特別研究
		食品加工学・実習	アパレル科学	医療情報学	
	フードマーケティング論	ファッションコーディネート演習	診療情報管理論		

表2 高校生に伝えた採点のポイント

1. 手紙のマナー 返信用封筒には「総合生活学科 行」となっています。郵送の時は手紙のマナーに則って修正してください。
2. 原稿用紙の項目 在籍高校名、氏名、科目名を明記してください。
3. シラバス内容理解 課題文章の前半は「最初にどのようなことを学ぶ科目かその内容を簡潔にまとめ」と書いています。レポート用紙前半は下線の通り、シラバスをよく読んで授業概要、到達目標、授業計画等からどのようなことを学ぶ科目か、その内容を簡潔にまとめて書いてください。
4. 自らの考えを述べる 課題文章の後半は「その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか」と書いています。レポート用紙後半は下線の通り、その科目を学ぶことで自分はどのような能力を身に付け、実生活に活かしたいか、を書いてください。 ※3と4はレポート用紙の前半と後半、と書いていますが、目安であり、ぴったり400文字詰原稿用紙を200文字ずつで区切る必要はありません。
5. 誤字脱字 しっかり内容を確認し、漢字がわからなければスマートフォンで変換してみる等して調べてください。
6. 原稿用紙の使い方 行の最初に句読点を書かないといった原稿用紙の決まりを守るようにしてください。
7. 段落 段落を付けて読みやすいレポートを心掛けてください。
8. 余白 文字が少なすぎても400文字を超えるのも好ましくありません。原稿用紙最終行まで書くようにしてください。
9. 丁寧さ レポートは他者が読みますので、丁寧な字で書くように心掛けてください。
10. 常体 レポートは「です」「ます」といった敬体ではなく、「だ」「である」の常体で書きます。

2.3 課題の実施・提出方法

郵送資料に、総合生活学科2019年度生シラバスのURLとQRコードを入れ、興味を持った科目を2科目選ぶようにする。

課題は400文字原稿用紙を同封し、①在籍高校名、②氏名、③科目名、④レポート本文（1科目につき1枚400文字以内）を書いて2科目の課題を送ってもらうようにした。

2.4 課題の採点方法

課題の採点について「教員はこのようなところを見て採点をします」という何を意識してレポートを書くのかを明記した。

図2は、入学予定者がどの科目を課題に選択したのか降順に各項目の得点状況や採点結果を示す。一番多かったのは必修科目「現代生活とマナー」であった。この授業は敬語、身だしなみ、電話のマナー、冠婚葬祭といっ

た日常生活において、相手の立場に立って考え、相手を不快にさせないためのマナーを学んでいる。また、食に関するマナーにおいてはテーブルマナーの実践があり、学生時代の貴重な経験として挙げる卒業生もいる。

次に多かった科目が、人が社会の中で生きていく上で、互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションの基礎知識を学ぶ「生活コミュニケーション論」、相手に満足、感動していただくおもてなしについて学ぶ「ホスピタリティ論」であり、この2科目も必修科目である。食生活分野において「食と健康」「調理実習Ⅰ」、生活デザイン分野において「色彩学」「生活とデザイン」が多く、医療事務分野においては「医療秘書学」「医事コンピュータ演習」といった科目が多い。

なお、採点結果は1年前期開講科目「フレッシュャーズセミナー」の第15回最終回にて返却するようにしている。「フレッシュャーズセミナー」ではレポートの書き方を主に学び、第15回になるとレポート課題を4回実施してお

り、主語の意識、文章構成等を学んでレポートを書く能力が向上している学生が多い。高校生の時に書いた入学前教育と「フレッシュャーズセミナー」で書いたレポートを最終回に見比べることで視覚的に自分の能力が上がったことを実感してもらうようにしている。

3. 結 果

3.1 人数集計

課題は46名全員から提出があった。2021年2月16日に郵送し、課題提出は3月10日までに本学必着という流れにした。図1は本学郵送到着日別人数を示す。10日以内に提出した学生が1名、3月初旬に11名提出があったが、

7割以上の入学予定者は期限が近くなってからの提出状況となっている。

図3は分野別に集計を取り、分野別の課題選択人数を示す。

本科は2020年当時2コース制であり、そのうちの1つである医療事務コースはほぼ3割の学生が所属し、医療事務の資格は4～5割の学生が取得しているため、医療事務分野の科目の人数が多い結果となった。食生活分野、生活コミュニケーション分野、デザイン分野、衣生活・ファッション分野も希望者が多く、幅広く学ぶ本科の特徴を表している。

その一方、福祉・介護分野は選択人数2名と少なかった。

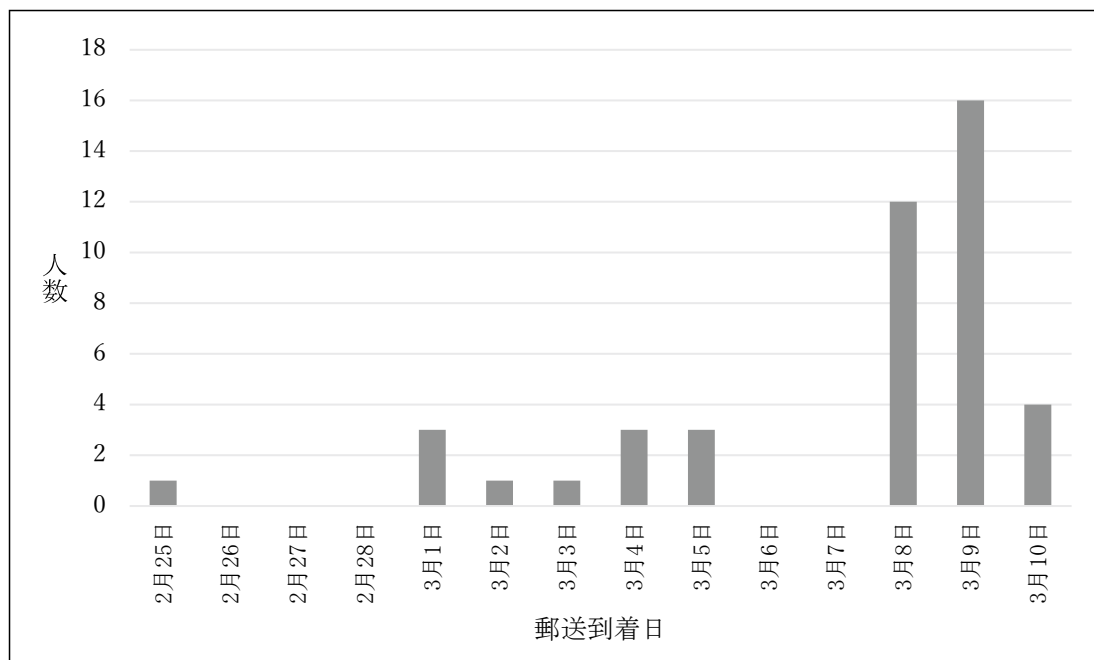


図1 本学郵送到着日別人数

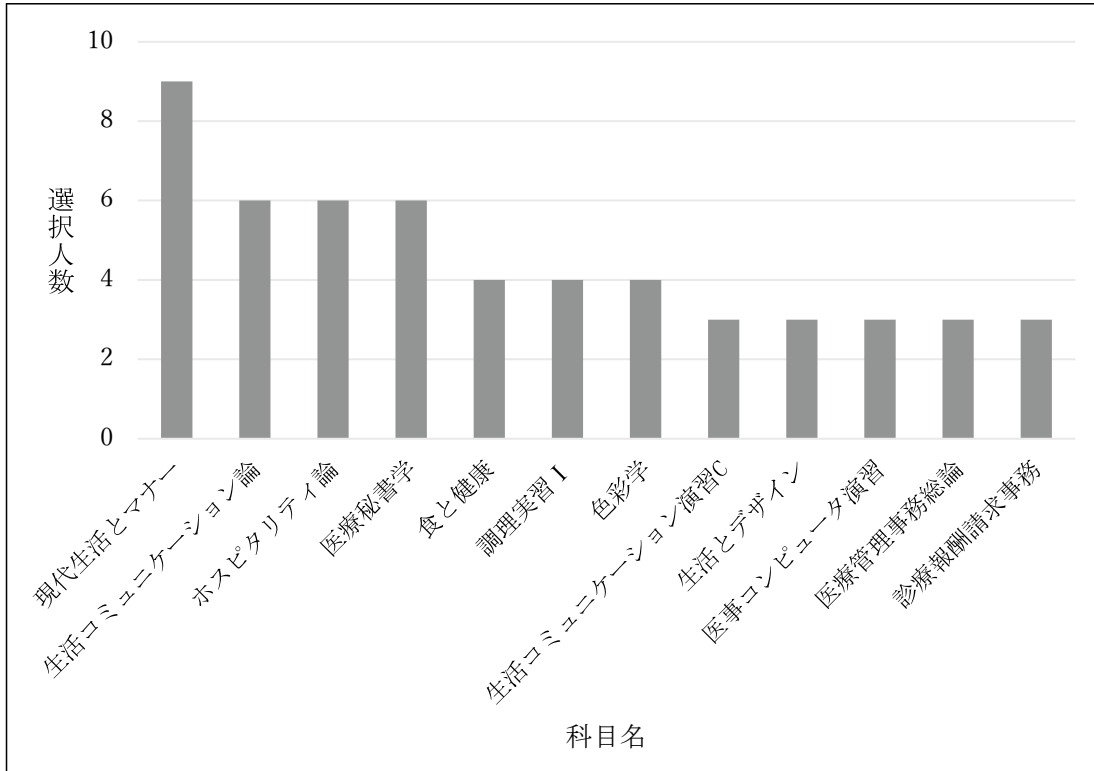


図 2 科目別課題選択人数降順

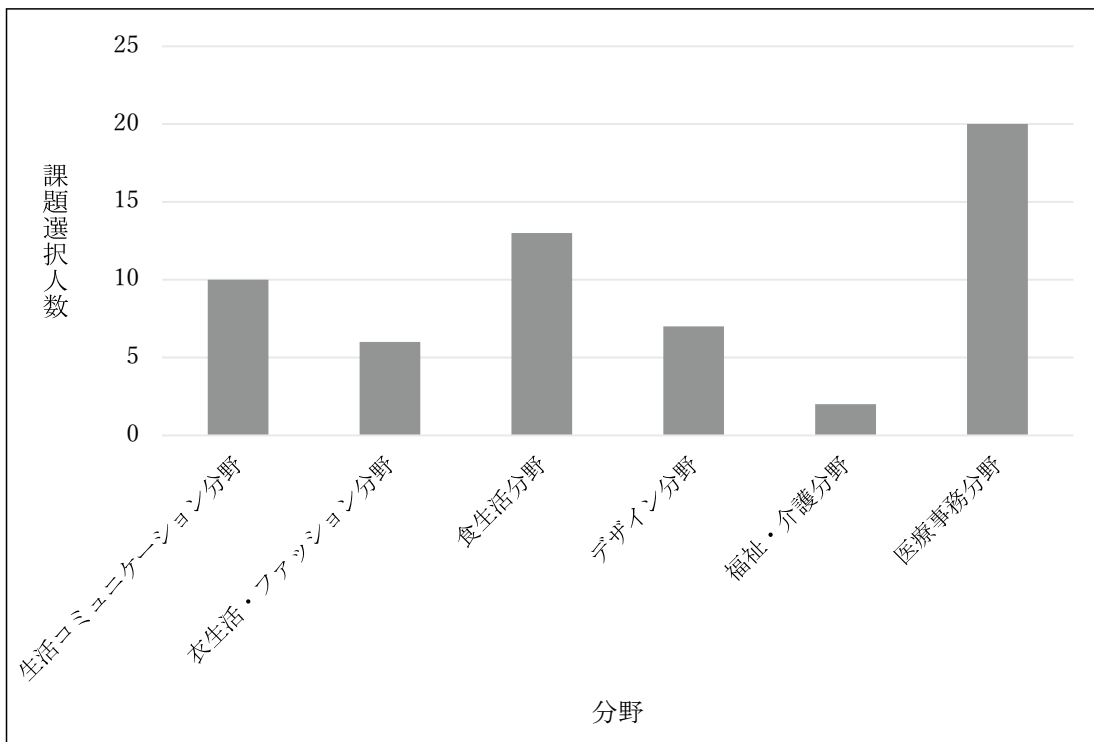


図 3 分野別課題選択人数

3.2 ルーブリック評価による得点集計

得点は、ルーブリック評価を設定した。ルーブリック評価のレポート項目を90点満点とし、2科目の平均を取り、手紙のマナーとして「返信用封筒の行を御中に直す」「自分の住所や名前を返信用封筒に書く」といったところを10点満点、合計100点で算出するようにした。

表3に今回実施した入学前教育のルーブリック評価を示す。主にはシラバスの内容理解、その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか自分の考えが述べられていることの2点を重視した配点とした。

原稿用紙を使用して手書きで書く課題なので、誤字脱字、原稿用紙を正しく使用している、段落を適切に付けている、文章量を過不足なく原稿用紙の最終行まで書く、文字を丁寧に書く、常体で書く、といった項目を設定した。

図4は評価項目別得点割合を示す。得点にすると、配点が高い内容理解や自分の考えを述べる項目の値が高くなるので、割合にしてどの項目でよく点が取れて、どの項目が減点となったかを視覚的に示す。

手紙のマナーにおいては、御中に直していない、自分の住所や名前を封筒に書いていない人が多く、得点は低くなった。基本情報の記入では科目名を間違えている人が数名いた。

内容理解は比較的良好に書けていたが、自らの考えにおいては不足が多かった。

原稿用紙の書き方に関する項目は、段落を付けていない人、丁寧に書けていない人も少なからずいたので、添付した説明書きをよく読んでいない可能性もある。

図5は得点分布別人数を示す。優しめに評価したこともあり、平均点は82.84点と高く、90点前後取れている人が多かった。

表3 入学前教育のルーブリック評価

<評価の方法>

評価指標				評価比率	評価点数		
②	基本事項	在籍高等学校、氏名、科目名を正しく書いて各2点、3項目で6点			6		
③	シラバスの内容の理解	シラバス内容の理解が不十分である。 (0~10点)	シラバス内容の理解があまりされていない。 (11~24点)	シラバス内容を正しく理解している。 (25~30点)	30		
④	自らの考え	その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか自分の考えが述べられていない。 (0~5点)	その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか自分の考えが述べられている。 (6~19点)	その科目を学ぶことでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか自分の考えがよく述べられている。 (20~30点)	30		
⑤	文章作成の基礎力	誤字脱字の数に応じて以下のように採点する。 1つ：3点 2つ：2点 3つ：1点 4つ以上：0点 (0~3点)		誤字脱字が無い。(4点)	4		
		原稿用紙が正しく使えていない箇所が1~4つ以上ある。 (0~3点)		原稿用紙が正しく使えている。(4点)	4		
		段落が適切でない。 (0点)	段落がつけられている。 (2点)	段落が適切である。(4点)	4		
		余白の行がある。または400文字を超えている。過不足共に1行：3点 2行：2点 3行：1点 4行以上：0点 (0~3点)		余白の行がなく、文章量が適切である。(4点)		4	
		文字が丁寧に書かれていない。 (0点)	文字がやや丁寧に書かれている。 (2点)	文字が丁寧に書かれている。 (4点)	4		
⑥	常体で統一されているか	常体で統一して書かれていない箇所が1~4つ以上ある。 (0~3点)		常体で統一して書かれている。 (4点)	4		

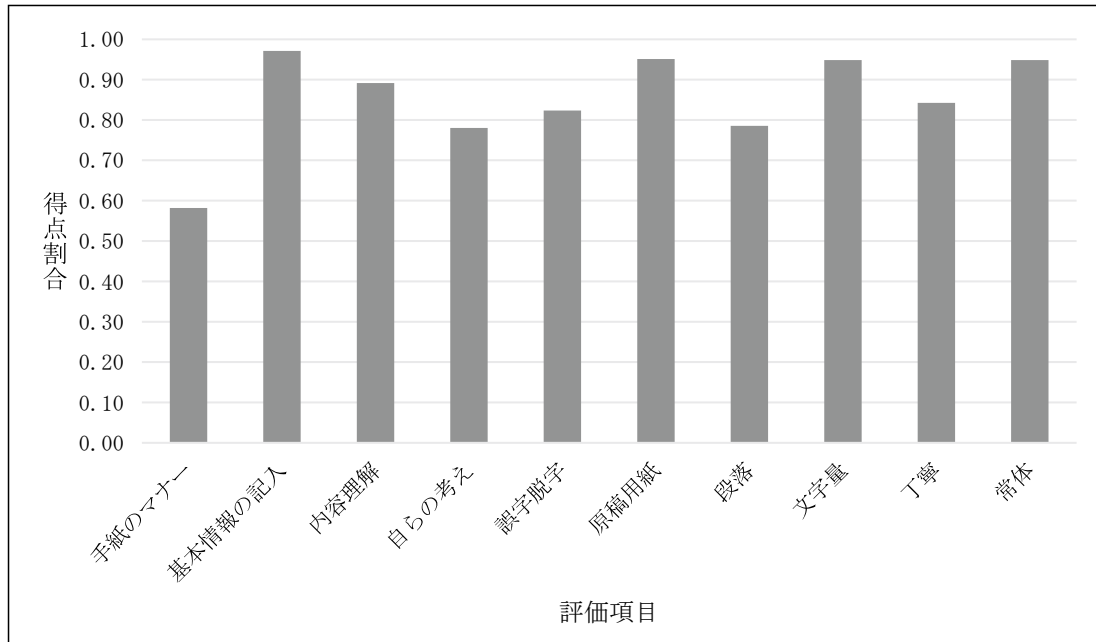


図4 評価項目別得点割合

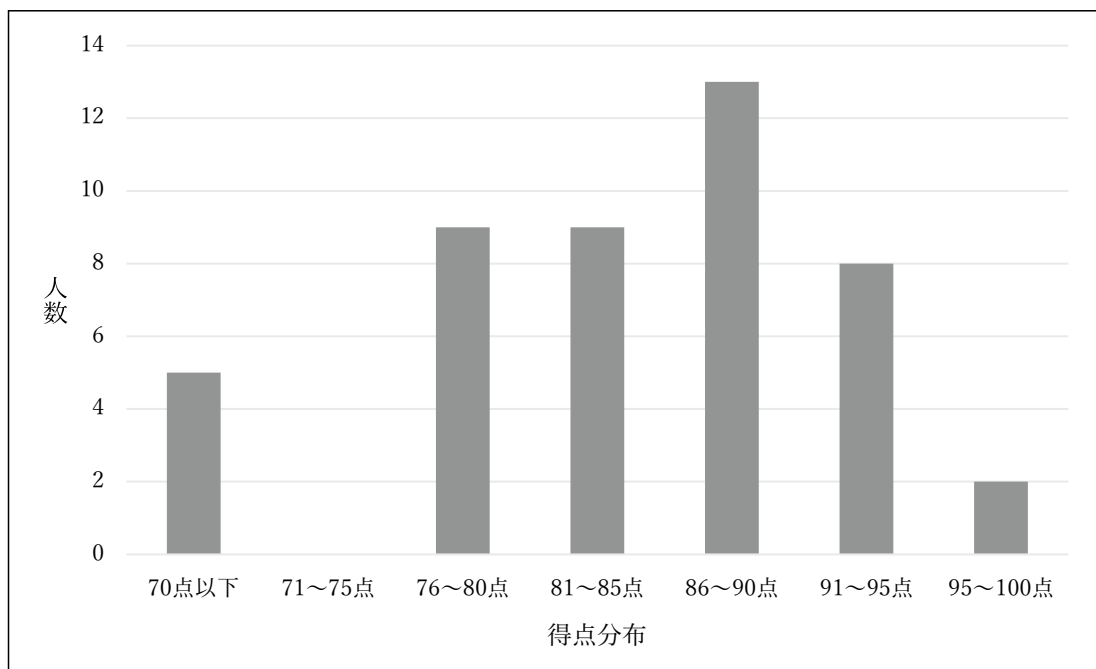


図5 得点分布別人数

4. 考 察

今回の入学前教育に関する教員の考察を示す。今回初めて出したシラバスを題材にした入学前教育の課題内容に関して、入学予定者の課題の出来等、入学前教育業務に関わることを全般を述べてもらった。

4.1 担当教員の考察1

担当した分野は、衣生活、ファッション分野、生活デザイン分野で、提出科目の多い順に、色彩学、生活とデザイン、ファッションと生活、ファッションコーディネート演習、ファッションビジネスであった。

入学前レポートの最重要課題は、「その科目を学ぶこ

とでどのような能力を身に付け、生活に活かしたいか」であり、上位3科目の公開していたシラバスを再確認したところ、色彩学では「生活の中での美しさや快適さを演出」。生活とデザインでは、「デザインが私たちの生活にとり入れ、デザインが人の暮らしに与える影響」。ファッションと生活では、「衣服が生活においてどのような意味を持ち、どのように関係しているか」と、生活に直結した自分の考えの記載が容易なために選択した人数が多かったと推察された。

衣生活、ファッション分野、生活デザイン分野での初年次教育レポート科目選択者から履修確認を行った。時期的に前期開講科目の色彩学、生活とデザイン、ファッションと生活の3科目のみになるが履修者名簿を確認したところ、レポート課題科目を選択した学生の約8割が実際に授業を履修していることがわかった。

レポート内容については、「自らの考え」を述べているかの項目での評価指数点数(30点)と高いが、文章に占める割合が少ないことと、全く改行もないレポートもあったが全体的には、よく書けていた。

今回、担当した3分野からの入学前教育の課題内容については、少なくとも入学前からしっかりとシラバスを確認することで、学習する科目の意識づけ、学習意欲を刺激することや履修につなげる可能性が秘めていることや、シラバスによって、各分野に興味を示させ、履修を推進させることも可能であり、シラバスを活用した入学前教育が大学の学びへスムーズに移行したことが窺えた。

4.2 担当教員の考察2

主に「基礎調理演習」、「調理実習Ⅰ」、「現代生活とマナー」の採点に関わった。こちらの科目はこの科目名からどんなことを学ぶかイメージがしやすく、学生も選びやすかったのではないかと考える。

採点をしたところ、シラバスの内容をよく読んで目的等を理解しようと努めた様子が見受けられ、ただ単に科目名からだけではなく興味をもって読んでくれているという印象を受けた。この課題に対して前向きに取り組んでくれたのではないかと感じた。

ただし、「常体で書く」ということがよくわかっていないためか、語尾が同じ表現になっていたり、敬体が混

在しいたりしていたので、入学後にレポートの書き方について学ぶ機会の提供の必要性を感じた。

また、今回のレポートのテーマはとても良いものであると思うが、入学予定者が課題に取り組んだであろう期間と、シラバス修正期間が重なっていたため、おそらく当該年度の学生の教育課程表に載る科目および、令和3年度2年次開講科目のシラバスの閲覧ができなかったのではないかと思う。総合生活学科では様々な分野の科目を開講しているが、令和3年度から開講する生活福祉コース関連科目および、2年次開講のヒューマンケア関連の科目、調理実習Ⅱ、Ⅲ、接遇演習などもっと多くの科目から選ぶことが出来なかったのは残念なように感じた。入学予定者が取り組む時期を考慮して、入学前教育課題を出すことは、迎える側の課題のひとつであると考ええる。

4.3 担当教員の考察3

担当したレポートの様子は、「よく書けている」と言える入学予定者が70%、「不十分」な入学予定者が30%であった。詳細に見ると、「よく書けている」と判定できても、「常体で統一できない」10%（文章の見直しが不十分であると想像される）、「原稿用紙の使用ルールからの逸脱」10%、「段落の使い方に改善の余地あり」10%、「字が汚い」（読み手への意識が低い）10%を確認した。一方で、「不十分」と判定した入学予定者は共通して主語・述語の不一致が確認できた。採点者側の採点における心証が悪化する要因として「主語・述語の不一致」がキーポイントになる可能性を感じた。

全体として得点が高い結果を得ているが、入学予定者に採点のポイントを示していることで、出題者側の意図が十分に伝わっているのではないかと判断する。

4.4 担当教員の考察4

担当したのは、生活コミュニケーション分野、現代生活とマナー、ホスピタリティ論である。いずれも必修科目であるためか、科目として選択した学生は多かった。

採点ポイントのうち、「シラバス内容理解」については、どの科目に関しても正確に書けている学生が多かった。シラバスをよく読んで作成したことが伺え、本レポートの目的である「シラバスを読むことで大学での学びを

具体的にイメージしてもらおう」ことが一定程度果たされたと言えよう。一方で、レポートの内容自体はシラバスの文言をそのまま使用しながら書いている学生も多かったため、どの程度深くシラバス内容を理解できたかは定かではない。もっと学生自身の言葉を使って理解した内容を述べてみると、本人の理解の質や程度がより把握しやすくなったであろう。もっとも、自分の言葉で書くということは、より難易度の高いことであるため、高校生には難しいことであるかもしれない。よって、この点は、入学後の教育によって育成していくべき側面であることが改めて浮き彫りになったとも言えよう。

次に、採点ポイントのうち「自らの考えを述べる」に関しては、自分自身の経験と照らし合わせて記述している学生がみられた。生活コミュニケーション分野に関しては、「自分はコミュニケーションが苦手」と感じている学生も少なくなく、入学後の学習を通して、他者と円滑にコミュニケーションをとる力をつけていきたいというものがいくつかみられた。このように、学生自身が自分の課題を認識し、入学後の学習に向けて目的意識を新たにすることは、学習への動機づけにもつながる。このことは、本レポートの効用とあってよいだろう。さらに、教員側としても、学生自身の自己評価や、コミュニケーション能力についての認識について知ることができたのは、一つの利点である。

また、「現代生活とマナー」「ホスピタリティ論」に関しては、社会に出る前にしっかりと学んで身につけたいといった意見や、就職活動に入る前に自分自身のマナーを振り返っておきたいといった学生が多いようであった。本レポートが、社会人として恥ずかしくない基本的なマナー等を身につける大切さを改めて認識する機会となっていると思われる。

最後に、今回の入学前教育の課題として、学生の自由な考えや各々の個性が表現されにくいという点が挙げられる。「シラバスの内容理解」に関しては、当然同じシラバスを読んだの記載となるため、似通った文章が多くなる。また、「自らの考えを述べる」ということに関しても、具体的には「その科目を学ぶことでどのような能力を身につけ、生活に活かしたいか」を書くように指示しているため、最終的にはシラバスの到達目標に類似したまとめ方のものが多い。よって、全体的に各々の学生

の個性といったものが読み取りにくい印象であった。問いをもう少し工夫することで（例えば、「なぜその科目に興味を持ったか」書くように指示するなど）、その学生にしか書けない個性がより見えやすくなると、今回の取り組みがより活きるのではないかと思われる。

4.5 担当教員の考察5

主に医療事務系の授業を担当した。医療事務の授業の主科目は医療管理事務総論、診療報酬請求事務3科目、医事コンピュータ演習3科目といったものであるが、これらの科目を課題に選択した人数は全て3人ずつであった。

多かったのは、ホスピタリティ、医療秘書といった科目の選択人数である。これらは科目名から何を学ぶかを頭で想像しやすい科目だと考えられる。実際に内容理解も自分の考えもよく書けている学生が多かった。医療管理、診療報酬のように普段聞かないような用語がある科目ではどのようなことを学ぶのか想像しにくいこともあり、内容が曖昧だった印象がある。また、シラバスの内容ではなくその科目に関連した経験談を書いている人も少なからずいたため、テーマを意識して書くことの大切さも感じた。

5. ま と め

今回、シラバスを読む課題を題材にして、本科に入学する高校生がどのような科目に興味を持っているかを把握できた。必修科目である「現代生活とマナー」「生活コミュニケーション論」「ホスピタリティ論」が上位であり、食、ファッション、医療事務と幅広く選択されていたので、現代生活に必要な学び、各自興味ある分野の学びを深める今のカリキュラムが、高校生の関心に見合う形で配置されていると考えられる。

その一方で、福祉・介護分野に関心を持つ高校生が少なかった現状も見られた。総合生活学科は令和3年度より生活創造コース、医療事務コースに加えて生活福祉コースが新設されて3コース制となり、介護福祉士を取得できることが学科の特徴の一つになったので、福祉・介護分野、介護福祉士の魅力をこれまで以上に伝えていく必要がある。

レポートに関しては、具体的な採点基準を示したこともあり、得点は90点前後が多く、きちんと取り組んだ人数が多いと考えられる。

手紙のマナー、原稿用紙の使い方で減点になった人数が多かった。手紙のマナーは科目選択人数が多かった「現代生活とマナー」、同じく必修科目の「生活学演習」でも学び、レポートの書き方は「フレッシュャーズセミナー」で学ぶため、入学後に指導していく必要性を感じた。実際に入学前教育に、ノックしてから入室することや言葉遣いなど、基本マナーを伝えることを取り入れている教育機関もある⁴⁾。

今回の入学前教育の課題は、入学予定者が選択した科目に偏りが大きかったため、科目担当が採点することで、採点業務の量にも偏りが生じた。業務分担も今後の課題である。

なお、インターネット閲覧環境がない人のために、メールまたは電話で興味を持った科目を2科目教えてもらい、該当科目のシラバスを印刷して送る対応も考えたが、この要望はなかったため、パソコンかスマートフォンいずれかは所持して対応したと思われる。

岩田らによると、入学前教育でさまざまな情報を受け取ったと感じている学生ほど、大学生活に適応でき、専門領域への関心も高いと指摘されており⁵⁾、入学前教育は入学後の学生の修学にも影響を及ぼす重要なものである。

大学生活ではレポートを書く機会が多くなり、社会人ではより文章を書く力が求められるため、入学前教育から学生生活の授業を通してレポート執筆能力向上に繋がられる内容を考えていきたい。

紀要(11), pp125-129, 2021年

- 3) 田上 正範：新入生の意欲を掻き立てる入学前教育プログラムの実践報告, (追手門学院大学) 基盤教育論集(6), pp75-85, 2019年
- 4) 渋谷 郁子, 岩田 昌子, 杉原 亨, 石川 拓次, 前澤 いすず：学生の主体的参加を高める短期大学入学準備プログラムの開発, 鈴鹿短期大学紀要(34), pp19-30, 2014年
- 5) 岩田 昌子, 渋谷 郁子：保育者養成課程に在籍する短期大学生の入学前教育の受けとめ方：大学適応との関係から, 鈴鹿短期大学紀要(33), p201-211, 2013年

参 考 文 献

- 1) 文部科学省：令和4年度大学入学者選抜実施要項について(通知)
https://www.mext.go.jp/content/20210617-mxt_daigakuc02-000010813_1.pdf
 (令和3年9月6日アクセス)
- 2) 太田 昌宏, 鈴木 浩子：【明星教育センター開設10周年記念特別編】教育実践の取り組みと成果「入学前教育」, 明星：明星大学明星教育センター研究